



2015 | メニコンCSRレポート

Menicon CSR report 2015

メニコンのCSR

トップ メッセージ

人にも動物にも環境にも 優しい地球企業でありたい

今年の6月25日、当社は東京証券取引所第一部および名古屋証券取引所第一部への新規上場をいたしました。ここに謹んでご報告申し上げますとともに、これまでの皆様のご支援、ご厚情に心より感謝申し上げます。

メニコンは日本で初めて角膜コンタクトレンズを開発して以来、絶えず安全で高品質な製品開発に取り組み、「より良い視力の提供を通じて、広く社会に貢献する」ことを使命と捉え、何事にも挑戦し続ける精神や創造性、独創性をもって、社会に役立つ製品とサービスを世界に提供し続けてまいりました。

次のステージに向けて、眼科医療分野以外の新規事業にも果敢にチャレンジし、『人にも動物にも環境にも優しい地球企業』として皆様から尊敬され、愛される企業をめざしてまいります。

今後も引き続きご指導とご支援を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。



株式会社メニコン
代表執行役社長

田中英成

CSR方針

CSR(Corporate Social Responsibility、企業の社会的責任)に関するグループ内の意識向上を図り、常に高い認識を持って行動することに努めると共に、CSR活動に関する情報開示を行い、各ステークホルダーとの連携強化を図る。

エンドユーザーとの関わり	エンドユーザーとのコミュニケーションを大切にし、使いやすさ・わかりやすさに配慮した安全な商品・サービスを提供する。
社員との関わり	従業員の人権を尊重すると共に、キャリア開発を支援し、働き甲斐を感じることで人事・教育制度と、福利厚生制度を確立・運用することにより、従業員満足を高めて、グループ組織としてのパフォーマンスを向上させることを追求する。
業界関係者との関わり	事業や各種協会等外部活動を通じ、公正な社会環境を整える支援を積極的に行うことで、広く社会に貢献する。
株主との関わり	コンプライアンスとリスクマネジメントの強化及び安定した業績により株主満足度を高める。
社会との関わり	環境関連法規(省エネ法)及びその他の同意事項を遵守すると共に、環境に配慮したエネルギーや資源の効率的な使用を実践する。 —材料・資材の調達や製品の購入において、開発段階から、より環境負担の少ないものを優先する。 —事業活動における廃棄物の低減に努める。 文化事業を通じ、地域住民や社会に貢献する。
コーポレートガバナンス (企業統治)	「内部統制システム整備の基本方針」に則り、その目的である「法令と倫理の遵守」、「事業の有効性と効率性の確保」、「資産の保全」、「財務報告の信頼性確保」を達成するために、必要な推進体制を自律性をもって構築運用すると共に、定期的に評価改善を行うことにより実効性の向上に努める。 また、「リスクマネジメント方針」に則り、企業経営に重大な影響を与えられとされるリスクを予防し、万一発生した場合にはあらゆるステークホルダーの安全を確保し、かつ事業が継続できるように、リスクマネジメントを推進し、経営の安定化を図る。

企業 スローガン

より良い視力の提供を通じて、広く社会に貢献する。

経営理念

Values 価値観

何もないところから、新たな価値を生み出すという、誰もやっていないことに、果敢に挑戦すること。

創造〈Creation〉

独創〈Originality〉

挑戦〈Challenge〉

Mission 私たちはどんな企業でありたいか

メニコングループは、コンタクトレンズで培った技術と人で、
社会に役立つ商品やサービスを世界に提供し続ける創造型スペシャリスト企業であること。

Vision 私たちが実現する夢 単なる夢で終わらせない夢

すべてのステークホルダーから尊敬され愛される企業の頂点、No1になる。

ステークホルダーに対するMission

エンドユーザー

パイオニアカンパニーとして、優れた技術で見える喜びと生きる喜びの提供により顧客満足度を高め、すべての顧客から長く『エンドユーザー』として利用し続けたい企業と思われること。

業界関係者

リーダーカンパニーとして、業界発展への積極的な寄与により外部研究者、得意先や取引先などの協同者満足度を高め、すべての業界関係者から長く『パートナー』として関わり続けたい企業と思われること。

社員

人間尊重カンパニーとして、自己実現できる生きがいのある就労環境の整備により従業員満足度を高め、すべての従業員から『ファミリー』として働き続けたい企業と思われること。

株主

道徳尊重カンパニーとして、遵法精神を貫き、健全な業績により株主満足度を高め、すべての株主から長く『サポーター』として応援し続けたい企業と思われること。

社会

地球市民として、すべての生命や環境、すべての文化や歴史に敬意を払い、すべての市民の満足度を高め、すべての尊い命から永遠に『良き隣人』と思われ続ける企業であること。



VISION 2020

2020年の当社グループのあるべき姿

- 商品開発から顧客サービスまで一貫した優秀なシステム・体制を構築・維持することによって他の追随を許さない商品とサービスを世界中へ提供し、顧客からの絶対的な信頼・支持を得ていること。
- 業界関係者や同業他社との提携・協力についても柔軟な姿勢をもって臨み、健全なグローバル市場を確立し、秩序を維持することによって、エンドユーザーの健康を守っていること。
- コンタクトレンズで培った技術を応用し、創造的かつ独創的な技術で眼科医療分野以外の新規事業に進出し、生命や環境に対しても新しい商品やサービスを提供していること。

事業概要

会社概要

会社名	株式会社メニコン
本社所在地	〒460-0006 愛知県名古屋市中区葵三丁目21番19号
創業	1951年2月
設立	1957年7月
代表者名	代表執行役社長 田中英成
資本金	29億6,784万円(2015年6月25日時点)
従業員数	1,116名(2015年3月31日時点)
事業所数	営業所・課15、直営販売店42、研究所・工場4、 カスタマーセンター1、物流センター4(2015年6月25日時点)

事業紹介

コンタクトレンズ事業

安全性へのこだわりと、快適さや便利さを備えたコンタクトレンズの創造と進化を追求するメイン事業です。そのためにお客様の声に耳を傾け、お客様の目線で発想し、製品とサービスの領域を広げ、新たなニーズにお応えすることが私たちの使命と認識しています。「視力の提供を通じ、信頼できるパートナーとしてお客様の人生と関わっていく」想いから、お客様の瞳の未来を見つめ、生涯にわたって一人ひとりにふさわしい「見える喜び」をお届けしています。



動物医療事業

家族の一員であるペットの瞳は、飼い主とのコミュニケーションに欠かせない感覚器官です。同事業では、人間の眼科分野におけるコンタクトレンズ・眼内レンズ開発で培った技術をベースに、動物の眼科医療に応用した犬用眼内レンズ「メニわんレンズ」や、犬猫用の「メニわん治療用コンタクトレンズ」を開発・発売し、獣医師とともに日本の動物眼科医療の発展に貢献しています。



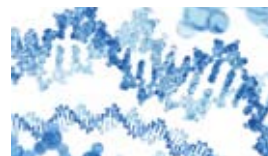
環境・バイオ事業

コンタクトレンズケア用品の開発で培った技術を環境・バイオ事業分野に活用しています。酵素技術を活かした稲わら分解促進材「アグリ革命」の開発をはじめ、家畜排泄物を迅速にたい肥化する「resQ45」、鶏の高い産卵率を維持するための「有機酸入りカルシウム強化剤」など、メニコン独自の学術的な研究開発アプローチで、環境・バイオ事業の可能性を大きく広げています。



ライフサイエンス事業

60年以上にわたるコンタクトレンズ事業で培った開発力や技術力、そして最も目を向けなくてはならない「安全性へのこだわり」を、ライフサイエンス領域である生殖補助医療、基礎研究、先端医療など、眼科医療以外の分野への展開によって新しい製品・サービスを提供しています。

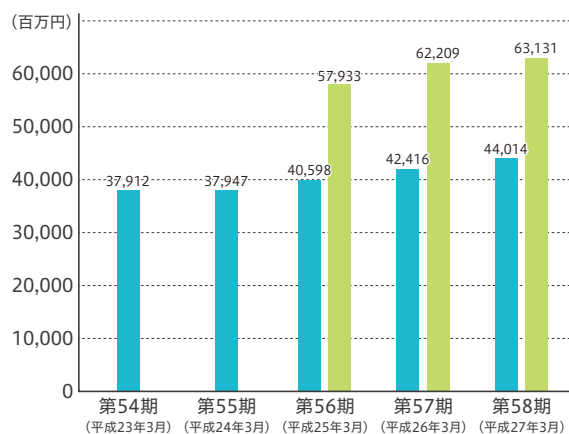


グループ 会社紹介

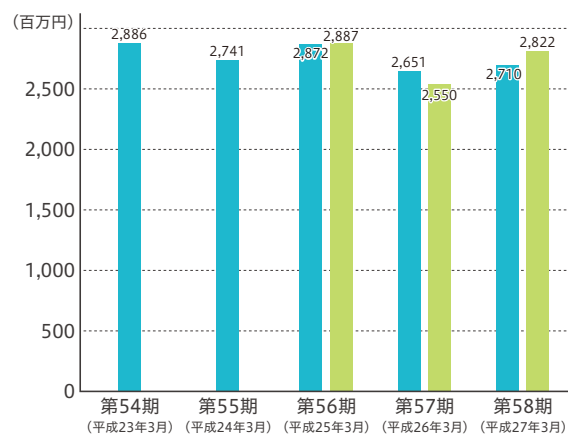
- | | |
|-----------------------------------|---|
| ●株式会社メニコンネクト | ●Menicon Espana S.L. |
| ●株式会社メニコンビジネスアシスト | ●Menicon America, Inc. |
| ●株式会社メニワシ | ●The Lagado Corporation |
| ●株式会社ダブリュ・アイ・システム | ●Menicon Singapore Pte. Ltd. |
| ●Menicon Holdings B.V. | ●Menicon Singapore Sales Pte. Ltd. |
| ●NKL Contactlenzen B.V. | ●Menicon Australia Pty Ltd. |
| ●Menicon SAS | ●Menicon Korea Co., Ltd. |
| ●Menicon Pharma SAS | ●Wenzhou FocuSee Vision Care Technologies Co., Ltd. |
| ●Menicon GmbH | ●Shanghai R&M Biotechnology Co., Ltd. |
| ●David Thomas Contact Lenses Ltd. | ●First Glory Holdings Ltd. |

業績ハイライト

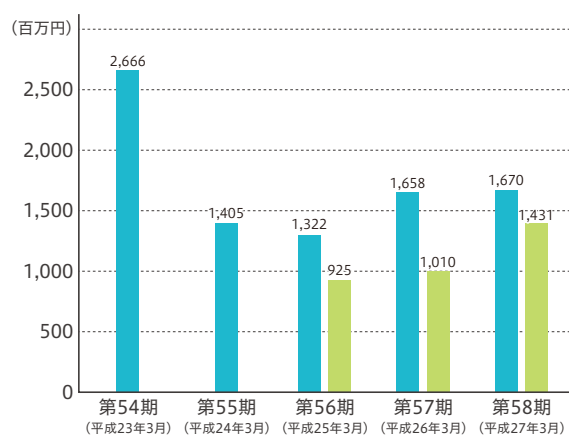
売上高



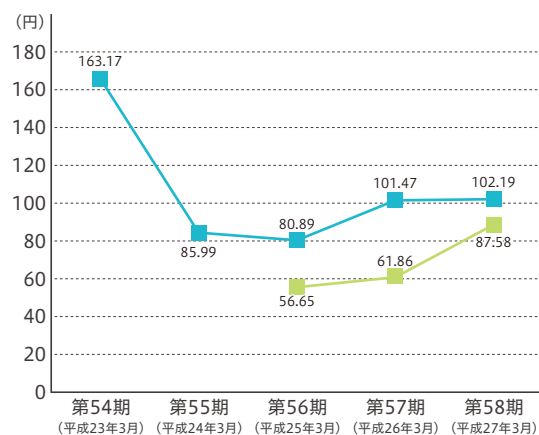
経常利益



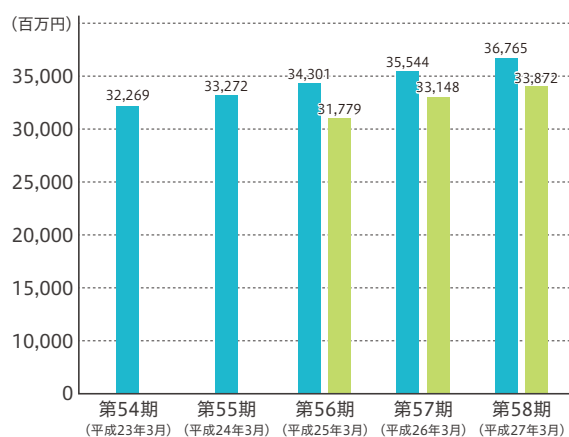
当期純利益



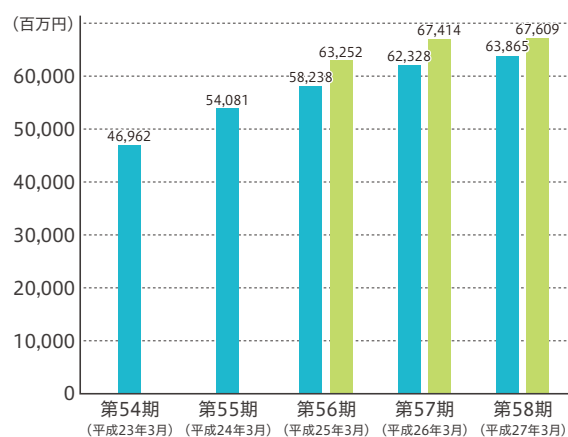
1株あたりの当期純利益



純資産額



総資産額



(注) 第54期及び第55期の数値については、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく、新日本有限責任監査法人の監査を受けておりません。

ユーザー・販売店・メーカー 3者のメリットが循環する メニコン独自の販売システム

コンタクトレンズ業界に一石を投じた
メルスプランの市場導入は2001年のこと。
導入までの道のりは険しく、
導入後の業績にも影響を及ぼした時期もありました。
しかし、田中英成社長の信念は
一切揺らぐことはありませんでした。
「目の健康のために、私たちができることをやる」。
その一途な自答が成し遂げた金字塔は、
メニコンに賛同した112万人との信頼です。



目 からウロコの画期的なサービス「メルスプラン」の誕生

■ユーザーの抱える悩みに、危機感をもって向き合う

コンタクトレンズは、高品質なものほど高額になる一方で、視力の変化や汚れ、破損など調子が悪くなった際には新しいレンズに交換する必要があります。しかし、そのたびにユーザーがレンズを買い替えることになると出費がかさむため、つい我慢して使い続けてしまうなど、目の健康に影響を及ぼす問題が潜んでいました。さらに海外から輸入されたレンズの流通やインターネット販売により、販売店間の価格競争も激しくなり、医療機器としてのコンタクトレンズの正しい装用やケア

についての安全啓発が行き届いていない状況が浮き彫りになってきました。

約20年前、眼科医として勤務していた田中英成（現メニコン代表執行役社長）が、重篤な眼障害になりかねないレンズ使用者を目の当たりにし、医師として患者さんへの注意を呼びかけますが、レンズの費用負担の課題が払拭されない限り、解決に至らないことを痛感。ユーザーの抱える問題を解決するための思案を巡らせ、発案したのが「メルスプラン」です。

■業界の常識を捨て、流通方法をゼロからつくる取り組み

問題解決の糸口は、ユーザーが経済的負担を気にせずとも、目の安全のために正しくコンタクトレンズを使用してくれる環境づくり。そのためには、業界の常識を捨て従来の流通方法を根本から見直すことが求められました。そして、紆余曲折を経て誕生したのが「月々の定額制でレンズを使用していただく」という新しい販売システムです。急な出費がかからない、目に適切でなければ交換できる、そういう環境が整えば、「目の健康」を考えた医師の指示も抵抗なく受け入れられ、ユーザーの安全意識も高まると信じてこそその決断でした。しかし、これまでの物販のスタイルから脱却した革新的なプランであっても社内では賛

否両論あり、役員間の意見も食い違うなど、まさに会社の将来を左右する大きな分岐点となりました。

「逆にユーザーを囲い込む商法だと思われる」「何度でも交換を求められたらどう対処するのか」「業績の安定は望めない」などの意見が交わされるなか、それでも田中英成の視線の先には、「瞳の健康を守り続ける、真に社会に貢献できるコンタクトレンズメーカー」の企業ビジョンが明確に見えていたといいます。本当に、目の健康にいいと思えることをビジネスで応えていく。そのスピリットを業界に示していく挑戦が、このとき始まったのです。

■ 瞳の健康を守る信念が、次第に理解され広まってい

2001年にスタートしたメルスプランは、業界の常識を超える新しい販売システムを世に問う船出でした。販売店では対面販売を通じてユーザーに適したレンズを提供することができ、眼科医は予防医療としての診療を行うことができ、メーカーにおいても安定的に研究開発が行えるなど、利益の循環を具現化したメルスプランを当社の直営3店でスタート。そのしくみの必要性について認知していただく啓発活動が続きました。その後、2005年にはコンタクトレンズが、障害を伴ったときの人体へのリスクが高いとされる高度管理医療機器として指定されました。これが、目の健康を唱える当社への追い風にもなり、メルスプランの入会者数増加へつながっていきます。メルスプランを取り扱う店舗も直営店からお取引先へと広がり、現在では112

万人の会員数を数えています。メニコンのスピリットに賛同していただいた会員様は常に目の健康を意識し、その大切さを共有できる信頼の絆で構成されたメニコンファミリーとして、私たちはその絆を深めていくことを本業だと認識しています。これからもお客様の瞳の健康を守っていく重責を胸に刻み、なお一層お客様の快適なコンタクトライフを支えていきます。

メルスプラン(MELSPLAN)の“メルス”とは、
「Menicon Eye Life Support」の頭文字M・E・L・Sに由来します。
この名前には、お客様の健やかなアイライフを
生涯にわたって支えていきたいという願いを込めています。

カラー・サークルレンズユーザーの目の安全を守るために

■ 良い商品を正しい処方と、正しい販売方法で提供する

今でこそカラーコンタクトレンズは世間一般に浸透していますが、視力補正を目的としない「おしゃれ用カラーレンズ」は、2009年に高度管理医療機器としての規制対象になるまでは、規制上は「雑品」で眼科医の処方なしにファッションアイテムの1つとして購入されていました。当時はユーザーコンプライアンスが不十分だったため、当社はカラー・サークルレンズの販売に否定的でしたがユーザーや取引先からの販売要望やライフスタイルとしてのレンズ使用の潜在的需要を鑑みて、サークルレンズの製品開発を遅ればせながらスタートさせました。

特に若いユーザーが多いカラー・サークルレンズだからこそ、健全な目の健康を守り、眼科医の処方と正しいケアを啓発する販売方法を示さなくてはなりません。その信頼をしっかりと

支えるのに一役買ったのがメルスプランです。安全性を最優先にする販売方法は、カラー・サークルレンズ市場においてもその有効性を実証し、業界のみならず市場からも支持されています。社会貢献に打算も妥協もいらない。利益追求型だけの未来は選択しないと、社長をはじめ社員一同認識している当社の活動スタンスです。



VOICE

メルスプラン加盟施設
CSC中部視力センター 西川 次一 社長

▶ メルスプランとの出会い

「CSC中部視力センター」は全国的にも早くからメルスプランを扱い、四日市市で唯一の受入施設です。お客様一人ひとりからヒアリングし、親身になってレンズ選びをアドバイスする“アナログ”なお付き合いを大切にしています。

「1日でも長くコンタクトレンズを使っていたきたいのですが、目の安全を考えれば限界がある。メルスプランなら、限界を迎える前にレンズを交換できてしかもお客様のお財布にも優しい。スタッフ全員が100%お客様にとって有益だと思って説明しているので多くの方にメルスプランをご納得いただいています。」



VOICE

メルスプラン会員様の声

▶ メルスプランをとても重宝しています

私はハードレンズを使用しています。無くしてしまうことは滅多にありませんが、使用開始から1年ほど経つと、段々レンズのくもりが気になります。そんな時ちょうどレンズリニューアルのお知らせがくるメルスプランは、とても重宝しています。自分の目に直接触れるものなので、リニューアルで清潔さを保てるのはとても良いと思います。

(女性27歳)

▶ 無理せずに交換しています

使い捨てタイプのレンズにしてから3か月経ちます。高校の行事や部活動で目を酷使することが多いのですが、調子が悪い時も気軽にレンズを交換できるので、目への負担も軽くなった気がします。使い捨てタイプはハードに比べて割高だと思うと2週間は我慢しなきゃと思っていたから気が楽です。定期検査にも行って目を大事にしたいと思います。

(女性15歳)

地域に愛される企業をめざして

メニコグループのネットワークは、日本国内から海外まで幅広く展開しています。

すべての地域で愛される企業をめざしながら、地域住民とのつながりを大切に多彩な活動を行っています。

地 域の方々をお招きし、関工場が30周年記念イベントを開催

国内コンタクトレンズ主要生産拠点である関工場は、2014年に創立30周年を迎えたことを記念し、同年8月1日に地域の方々への感謝の気持ちを込めて、関市子どもたちに喜んでいただける記念イベントを企画しました。関市スポーツ少年団（孫六桜ヶ丘サッカー、孫六旭ヶ丘サッカー）の小学4～6年生37人をご招待し、工場見学では目の健康の大切さを考える機会として、徹底した安全品質管理体制の下、つくられるコンタクトレンズの製造現場を“直視”していただき、さらにスポーツジャーナリストの中西哲生さんを特別講師に迎えてのサッカー教室を行いました。今後もますます地域の皆様に愛される企業をめざしていきます。



環 境に配慮した先進設計の各務原工場・オランダ新工場が稼働

当社は、岐阜県各務原市テクノプラザ・東エリアに「各務原工場」を新設し、2015年3月23日に竣工内覧会を開催しました。各務原工場は、新製品の1日使い捨てコンタクトレンズの生産拠点として初年度4,000万枚、早期に年間約2億枚の生産を目指します。同工場は、高度管理医療機器工場として高い品質基準を設定し、冷暖房には再生可能エネルギー利用で高効率なヒートポンプチャラーを採用するなど、最新の省エネ法に準拠した設計となっています。また、2013年12月に稼働したオランダ工場（エメン市）も断熱ガラスの採用や地下水の利用により、空調用エネルギーの大幅な削減を図るとともに、空調の排熱を再利用した冷暖房システムも採用しています。こうした効果により、消費電力を45%、CO₂換算で35%の削減を達成した環境にやさしい設計、デザインを採用しています。同工場は、欧州における主にハードタイプのコンタクトレンズの生産拠点であり、研究開発（R&D）やマーケティング、製造・物流および労務管理機能も果たします。



夢と希望を届ける活動

メニコンでは、東日本大震災で特に被害の大きかった岩手県・宮城県・福島県の沿岸部にあるサッカー場復旧に必要な「芝生の種」を寄贈し、被災した子どもたちに夢と希望をお届けしています。

芝生の移植ボランティアにもメニコンの社員が参加

当社は東日本大震災の復興支援活動の一環として、特に被害の大きかった岩手県、宮城県、福島県の沿岸部の3つのサッカー場に芝生の種と観戦用ベンチを寄贈しました。これは、「メニコンスーパーコンサート」として特別協賛した「歌劇 あしたの瞳 ～もうひとつの未来」のチケットの収益の一部と、コンサート会場および「メニコンカップ」にご来場いただいた皆様からお預かりした募金を資金源にしています。さらにサッカー場のグラウンドの復旧・維持管理として、日本サッカー協会による復興支援活動の一環である芝生の移植作業にメニコン社員もボランティアとして参加しました。

福島県相馬市の立谷秀清市長からは「このたびのご支援に感謝申し上げます。子どもたちをはじめとする多くの市民に、スポーツに親しんでいただくとともに、サッカーを通じた交流人口の拡大につなげたいと考えております」と感謝のメッセージをいただきました。当社は、今後も継続的に東日本大震災の復興支援活動に取り組んでいきます。



■ 寄贈先

- 岩手県：盛川河川敷公園サッカー場（提供先団体：大船渡市）
- 宮城県：七ヶ浜サッカースタジアム（提供先団体：NPO法人アクアゆめクラブ）
- 宮城県：MFA松島フットボールセンター（松島町）
- 岩手県：釜石フットボールセンター松倉グラウンド（釜石市）
- 福島県：相馬市光陽サッカー場（提供先団体：相馬市）

■ 寄付金額

- 300万円相当（観戦用ベンチ）

■ 寄贈品

- 観戦用ベンチ 6基
- 芝生の種



*寄贈先グラウンドの選定については、公益財団法人日本サッカー協会にご協力いただきました。

マネジメント

ステークホルダーの皆様に信頼されるため、コーポレートガバナンスの徹底・強化を図り、企業価値の向上・経営の安定化を実現していきます。

コーポレートガバナンス

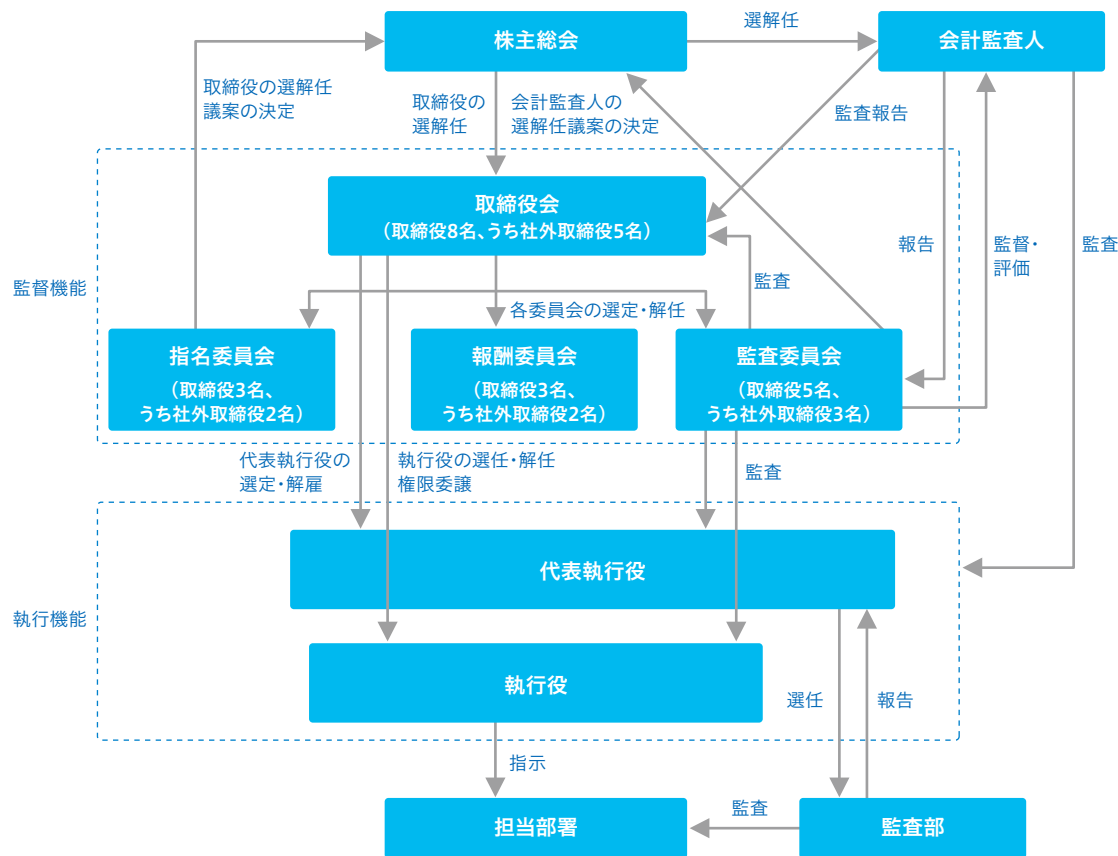
当社は株主、投資家、顧客、従業員など全てのステークホルダーから尊敬され愛される企業をめざし企業活動を行うことを基本方針のひとつとしています。そして、その実現のためにステークホルダーからの信頼獲得および健全な企業経営を重要課題と位置づけ、コーポレートガバナンスの拡充として各施策を講じています。

企業統治の体制の概要

当社は会社法に規定する指名委員会等設置会社であり、取締役8名（うち社外取締役5名）および執行役10名（兼務取締役1名を含む）により構成されています。社外取締役は客観的・大局的に、企業価値の向上という観点から執行役が行う経営の監督ならびに助言を行っています。業務執行および経営監視の仕組みとしては、株主総会において選任された取締役で構成する取締役会が会社の重要な意思決定と執行役の監督を行い、経営を監視し、取締役会により選任された執行役が担当業務ごとに強化された権限により、迅速で効率的な業務執行を実現しています。各委員会（指名委員会、報酬委員会、監査委員

会）の委員は、過半数が社外取締役ににより構成されています。各委員会の役割として、「指名委員会」は次回の定時株主総会に提出する取締役候補の決定、「監査委員会」は取締役および執行役の職務執行の適法性・妥当性監査と会計監査人選任案の決定、「報酬委員会」は取締役および執行役の報酬制度・報酬金額等の決定を担っています。また、業務執行上の重要案件（取締役会決議事項を除く）については、執行役全員で構成する「業績検討会議」および「執行役会」において審議、決定することとしています。なお、下に指名委員会等設置会社の機構図を示します。

コーポレートガバナンス体制



リスク管理およびコンプライアンス体制

当社は、2006年4月にCSR(企業の社会的責任)活動の推進および内部統制機能の強化を目的としたCSR委員会を設置しました。2014年度は、インサイダー防止規程の制定、社内コンプライアンスをテーマとした勉強会の実施、加えて大規模な災害を想定した防災訓練や災害マニュアルの作成、不当要求や不審者対応勉強会など、多様なビジネスリスクの低減に尽力しています。また、国内のグループ会社を対象に、独自に作成した「コンプライアンスガイドブック」を配布して、コンプライアンスの維持向上に努めています。この他にも各分野におけるリスク管理のため、「品質保証安全管理委員会」、「PLD委員会」、「個人情報保護委員会」、「メニコン公正取引管理委員会」を設置しています。



内部通報制度

当社は、グループにおける法令、定款、社内規程および企業倫理を誠実に遵守する公正な経営を実現するために、違反行為を独立した第三者機関を介して通報する制度を導入しています。この制度はメニコン社員だけでなく、グループ各社の社員、派遣社員も利用できます。通報に対しては事実確認のうえ、適切な対応をしています。



内部通報ホットライン携帯用カード

個人情報の保護

当社では、お客様および当社に関わる全ての方からお預かりした個人情報を適切に利用し、保護することが事業活動の基本事項であり社会的責任であると考えています。そのため個人情報の保護について細心の注意を払うとともに、当社のサービスを安心してご利用いただくための「個人情報保護方針」を定めるとともに、「プライバシーマーク」を取得し、個人情報を厳重に管理しています。



社内個人情報保護教育テキストより

品質マネジメントシステム規格

当社では、品質の確保および顧客満足を目指して、本社はもとより、メニコンSAS、メニコンファーマ、NKLにおいて、医療機器の品質マネジメントの国際規格であるEN ISO13485を取得しています。EN ISO13485とは、ISO9001をベースに医療機器固有の要求事項を追加した、医療機器の安全性と品質を継続的に確保するための品質マネジメントシステム規格のことです。さらにヨーロッパの品質保証規格に適合した商品であることを示すCEマークも取得し、国内外に向けて確かな品質をお届けしています。



エンドユーザーとの関わり

時代とともに変化するニーズを的確に捉え、高い顧客満足をめざした商品やサービスを提供。
すべてのお客様が永く「エンドユーザー」として利用したいと思える企業をめざします。

お客様と顔を合わせながら安全で快適なコンタクトライフをサポート

当社では、お客様のすぐ近くでコンタクトライフをサポートしたいという思いから、直営販売店を全国各地に設置しています。コンタクトレンズメーカーならではの経験と知識を持ったスタッフが、お客様との対面・対話を通じて疑問や不安をきちんと解決に導き、ベストなご提案ができるように心がけています。また、目の健康を守るためにはレンズの傷や汚れに対する対応も大切です。ネット販売や通販では対応できない、瞳を見つめながらのカウンセリングと、気軽に立ち寄れるコミュニケーション空間づくりを通じて、ユーザーコンプライアンスの向上に努めています。こうした心がけが、2013年の顧客満足度調査で96.9%※のお客様に「また来店したい」という評価をいただいています。

※当社調査結果



直 営 販 売 店

北海道・東北エリア5店 関東エリア14店 中部エリア10店 関西エリア6店 中国・四国エリア4店 九州エリア3店

安心してお問い合わせやご相談ができるホットライン「ひとみトーク」

当社では、お客様に正しく安全にコンタクトレンズをご使用いただくために、レンズやケア用品に関するサービス内容ははじめ、手続きや費用に関するさまざまな疑問や不安、お問い合わせのご相談窓口として「お客様センター」(メニコール フリーダイヤル0120-103-109)を設置しています。電話でのお問い合わせは月平均約2200件、メールでは月平均約400件に対応しています。的確かつ迅速にお客様のニーズに応えられるよう、幅広い知識が要求されるスタッフの教育に力を注ぐとともに、最先端のオペレーティングシステムを導入して、サービス品質の向上に努めています。このほか、メルスプラン112万人の会員様や加盟施設との窓口である「メルスセンター(会員専用ダイヤル)」を設置し、いつでも安心してご利用いただける体制を整えています。



安全哲学憲章

メニコン企業スローガン

より良い視力の提供を通じて、広く社会に貢献する。

～安全哲学憲章～

Premium Safety

～その先の「安全」を目指して～

私たちメニコンは
高度管理医療機器を取り扱うメーカーである。
だからこそ、私たちはお客様の眼の「安全」を
最優先に考えたものづくりをしなければならない。

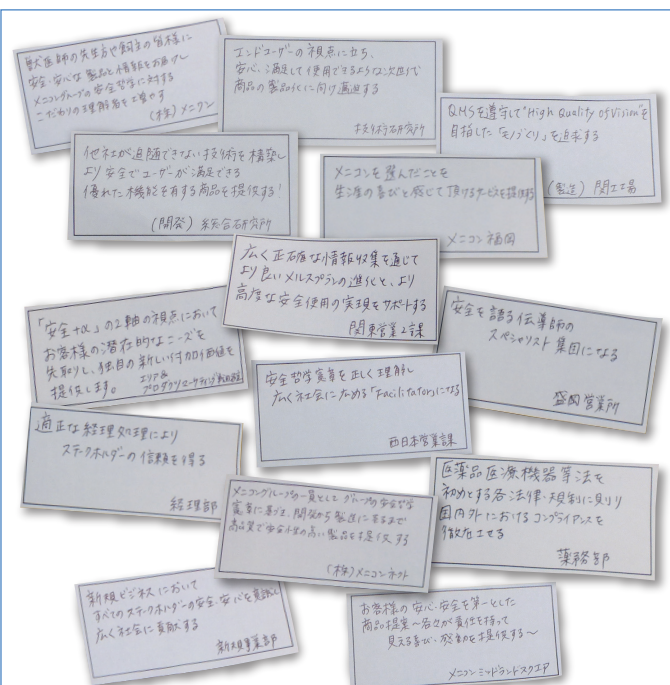
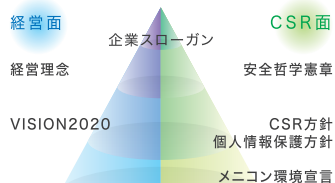
私たちメニコンの考える「安全」とは、
「時代に先駆けて、より高い基準を自ら設定し、
それを越えるべく挑戦し続けることによって
はじめて実現される安全」である。
私たちはひたむきにこの「安全」にこだわり続けることにより、
お客様と共に驚きと感動を分かち合えると信じる。

私たちメニコンは
研究開発から生産、物流、営業活動を含む
あらゆる企業活動において、
「安全」を一貫して追求する体制を整え、
進化させる努力を決して惜しまない。
これが医療にたずさわる企業の社会的責任であると考えます。
また、これが「目にならずさわる責任」である。

さらに、私たちメニコンの挑戦はこれに終わらない。
私たちは一人ひとりが「安全」を語る
伝道師として夢と誇りを持ち、
新しい「安全」を創造するために不可能と思われる
領域に対しても積極果敢に挑戦し続けていく。

以上が私たちメニコンの「安全哲学」である。

私のテーマ



その想いを各部署の業務に反映

当社では、社員証を兼ねた「メニコン ブランド ステートメントカード」を制作しました。メニコンが提言する「安全哲学憲章」を、各社員が所属する業務にどう反映させて具現化するのか。カードに設けられた「私のテーマ」に各社員が記載し、携帯して日々の業務の糧としています。

社員との関わり

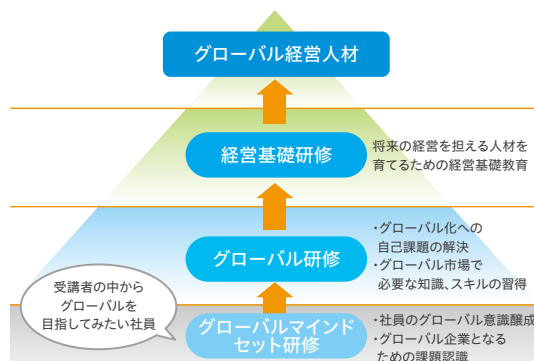
従業員一人ひとりの個性を尊重し、主体性を活かした人材育成や心身ともにすこやかに働ける職場環境の整備を推進しています。

グローバル戦略を見すえた人材育成制度

新しい商品・サービスを全世界に広げ、すべてのステークホルダーから信頼され愛される企業をめざして、当社は「グローバル経営人材育成」に向けた体系的な研修を導入しています。グローバル意識の醸成や課題を認識する「グローバルマインドセット研修」を起点に、ボーダレスな活躍を志向する社員を対象に具体的なスキルや問題解決力を養う「グローバル研修」、将来の経営幹部を育てる「経営基礎研修」の3段階で育成を図ります。併せて、階層別の「新入社員研修」「企画職2年目研修」「昇格者研修」「新任管理者研修」「新任店長・所長・課長研修」で、個々の成長や自己啓発を支援する機会を設けています。

グローバル経営人材育成

ボーダレス感覚を備え、経営を担うことのできる若年層人材を育成する。



メニコン独自のアドバイザー資格制度「PAL(パル)」

安全哲学を基軸とした企業活動の推進に不可欠なのは、適切な情報とサービスの提供です。そこで当社では2002年より独自のアドバイザー資格制度「PAL※」を導入し、①商品の品質を顧客に正しく確実に伝える力 ②高付加価値化に対応できる力 ③習得した知識と技術を活用できる力を養成し、「創造型スペシャリスト」の育成に力を入れています。全新入社員必須の「エレメント」に加え、「スーパー」「ハイパー」の3段階からなる試験は800名近くの受験者を数え、社員間での自主的な対策勉強会も活発です。また、専門知識を網羅したテキストは、業務に直結したパイプルの存在としても活用されています。さらに、この資格は定期的な更新が義務づけられており、コンタクトレンズのプロフェッショナルとして社員一人ひとりが成長し続けられる企業風土をつくりあげています。

※Menicon Products Adviser License Systemの略称

段階的にステップアップできるPALの資格体系



エレメント

社員にふさわしい知識・技術を備えている[入社3年目までに取得を推奨]

スーパー

より専門的な知識を持った即戦力として、社員・得意先教育ができる

ハイパー

専門かつ高度な知識と技術を有し、社員・得意先教育ができる

心身の健康維持をめざし健康サポート体制を充実

当社では高度管理医療機器であるコンタクトレンズを扱う企業として、従業員も健康に対して高い意識を持ち、良いコンディションで仕事に打ち込めるよう、さまざまな支援体制を整えています。2010年からは「禁煙外来治療補助金制度」を導入。社内通達やポスター掲示などを通して禁煙を呼びかけた結果、2014年度の社内アンケート調査では非喫煙率が8割強となりました。また、業務上お客様や医療関係者と接する機会が多いことから、インフルエンザ予防接種についても全額負担制度を設けています。さらに2015年から国の労働安全衛生法によって義務づけられた年1回のストレスチェックも、当社ではそれ以前からいち早く実施を開始。家族も相談できる「こころの電話相談」ホットラインなどメンタルサポート体制の充実も図り、心身ともにすこやかな毎日を応援しています。



業界関係者との関わり

得意先や取引先とのより良い信頼関係を深め、絆を確かなものに。
コンタクトレンズのリーディングカンパニーとして業界に貢献しています。

情報・意識の共有化を図る「サプライヤー会」

当社が常に製品の品質向上を図り、安定的な供給を続けるためには、原材料メーカーや設備メーカー、さらには広告、ITなどの流通・情報企業まで幅広い業種にわたるサプライヤーの存在を抜きにして語れません。サプライヤーとの信頼関係をより強固にし、当社の取り組みや今後の方針をご理解いただくために、2013年度より開催されているのが主要な取引先向けの「サプライヤー会」です。2015年は長年お取引のある約100社を「HITOMIホール」にご招待し、代表執行役田中社長より感謝の意を伝えるとともに、コンサートでおもてなし。その後、懇親会を通じ、当社の執行役とはもちろんのことサプライヤー同士での情報交換が活発に行われました。刻々と変わる消費者ニーズや業界動向、各社の取り組みなどを共有できる場として参加者にも毎年好評をいただいております、当社を軸に共存共栄の絆を広げ、業界全体の活性化につなげる機会へと発展させています。



コンタクトレンズ業界を支える人材を育成

当社では安全哲学に基づいた人材育成を全国の販売店にも広げるべく、仙台、東京、名古屋、大阪、福岡の5か所の研修センターにて社外研修を実施しています。研修はコンタクトレンズについての知識・技術および接客マナーの2本柱で構成され、定期開講のほか、要望に応じて出張講義も行います。また、全国初の試みとして、一般の学生や既卒者を対象とした「メニコン コンタクトレンズ スクール」を2013年より名古屋でスタート。これは就職支援型の夜間スクールであり、眼の安全を最優先に考えた行動のできる人材育成を目的としています。少人数制の指導のもと、修了時には「コンタクトレンズアドバイザー」認定証を授与、2014年度の就職決定率は100%でした。修了生は販売店でコンタクトレンズの正しい使い方をユーザーに伝えるアドバイザーとして活躍しており、スクールを通じた眼の安全に対する取り組みが高く評価されています。



関連団体と連携し、普及活動や業界の発展に貢献

当社が加盟する（一社）日本コンタクトレンズ協会は1958年に発足し、2015年6月現在、コンタクトレンズおよびケア用品関連の製造販売業、製造業、卸売販売業を営む正会員35社および賛助会員36社で構成されている団体です。同協会では行政、医会、学会とも連携を図り、最新情報の提供、勉強会、説明会、展示会などのさまざまな活動が行われています。また、正しい使用方法を呼びかける安全啓発活動、営業所管理者に義務づけられている「継続的研修」の開催、ケア用品の安全自主基準を設け、適合した製品に「適合マーク」を発行、メーカーの枠を超えたオンライン受発注システムの運営など幅広い活動を展開しています。

当社もコンタクトレンズのパイオニアとして同協会にさまざまな形で協力。さらに（一社）日本医療機器産業連合会をはじめ、その他の関連団体にも加盟し、業界の健全な発展に力を尽くしています。



社会との関わり[地域社会への文化活動]

「見る」ことの喜びを分かちあい、多くの人々に感動や夢を与える社会貢献活動の一環として、さまざまな形で芸術や文化、スポーツ等の支援を行っています。

「見る感動」を広げるHITOMIホール

メニコンでは「見ること」の素晴らしさを多くの方に届け、見ることから広がる感動を共有することをコンセプトに、本社に隣接する「メニコンANNEX」5階に「HITOMIホール」を開設しています。プロによる音楽演奏会をはじめ、国際会議や講演会、映画試写会など多目的に利用できる空間を通じて、心豊かな時間を多くの方々に提供しています。このホールは、ステージと客席の距離が近く、より深い臨場感や躍動感を味わえる特徴を備え、また、レンタルホールや録音スタジオとしても利用できるなど、さまざまなアプローチで幅広く一般市民に愛される文化の創造・発信を支援しています。



創造の原点を伝えるギャラリーMenio

「メニコンANNEX」1階には、「見ることから広がる社会とのコミュニケーション」をテーマとしたギャラリーを開設しています。常設展示スペースでは、メニコンのものづくりの精神とそのルーツを物語る工芸作品を展示し、メニコンが歩んできた「独創とチャレンジ」の原点ともいえるべき、他に類をみない発想で創られた作品を公開しています。また、一般市民の方々が作品発表の場として利用できる展示コーナーも併設。可動式パネルで空間を間仕切りできるなど、利用のしやすさにも配慮して、「見る」を通じたコミュニケーションの場を提供しています。



音楽を見て感じるメニコンスーパーコンサート

耳からの感動に加えて、ホールの臨場感やステージの躍動感など、音楽を「見て楽しむ」ことをコンセプトに「メニコンスーパーコンサート」を毎年開催しています。2015年2月には愛知県芸術劇場大ホールにて創業者会長・田中恭一の半生をモチーフにした宮川彬良氏初の書き下ろしオペラ「あしたの瞳～もうひとつの未来」を特別協賛しました。出演者には中部地区にゆかりのある音楽関係者を揃え、名古屋近郊の市民合唱団約80名、学校法人・専門学校名古屋モード学園(衣装・ヘアメイク)とのコラボレーションを実現することができました。チケット収益の一部は、東日本大震災で被災した岩手県・宮城県・福島県の3つのサッカー場の芝生整備に役立てています。



次世代の名選手を輩出するメニコンカップ

サッカー選手を目指す子どもたちの夢を応援する一助として、1995年から日本クラブユースサッカー(U-15)の東西対抗戦「メニコンカップ」に特別協賛しています。名古屋市瑞穂公園を会場に、15歳以下の有力選手が集結するオールスター戦として、近年は1万人規模の観衆が集まる注目大会となっています。これまでに本大会出場選手の多くが、国内外のチーム(2014年6月時点でJリーガー106名、海外クラブ所属選手7名)や日本代表で活躍しています。本大会をステップに成長を遂げる次世代の選手たちに「夢」や「チャレンジスピリット」をお届けするとともに、“アイコンタクト”で展開するスポーツを通して生まれる感動を多くの人々に伝え続けていきます。

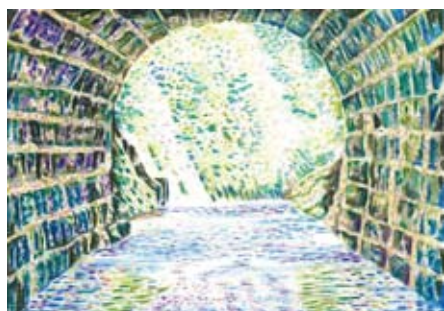


目の愛護デーに絵はがきコンテストを実施

パソコンや携帯電話、ゲームなど、情報化社会が進化するにつれ、目を酷使する機会が多くなっています。こうした中、メニコンは“目を大切にする意識”や“目に対する思いやり”を、多くの方に呼びかけるため、2004年から毎年10月10日の「目の愛護デー」に絵はがきコンテストを実施しています。毎回さまざまなテーマで「見る」にちなんだ作品を募集し、一

般の部、キッズの部それぞれに素晴らしい作品が数多く寄せられています。審査にはグラフィックデザイナー・岡本滋夫氏、目の愛護デー実行委員会、当社代表執行役社長があたるとともに、インターネットによる一般からのWEB投票も実施して、受賞作品を決定しています。

〈一般の部 大賞〉



〈一般の部 優秀賞〉



〈キッズの部 大賞〉



〈キッズの部 優秀賞〉



社会との関わり[環境への貢献活動]

長年培ったコンタクトレンズの研究をさらに追究していくうえで発芽した新技術。

生物を含めた環境保全活動につなげていく商品開発や事業展開が少しずつ実を結び始めています。

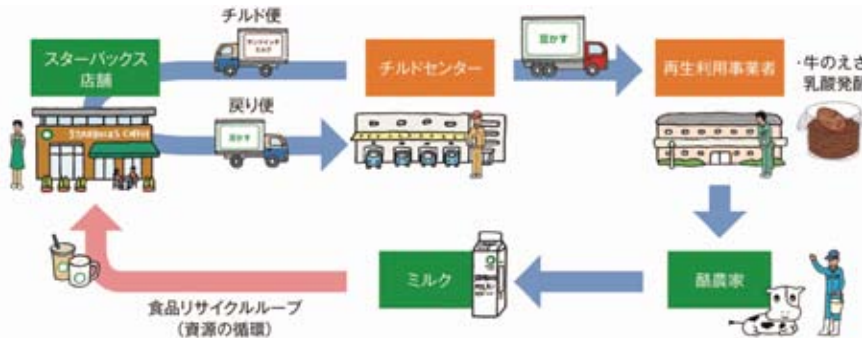
豆かすの飼料化・再生利用システムが「食品産業もったいない大賞」を受賞

スターバックス コーヒー ジャパンとともに取り組むコーヒー豆かすの飼料化・再生利用システムが、2015年「第2回食品産業もったいない大賞」(一般社団法人日本有機資源協会主催)の農林水産大臣賞を連名で受賞しました。これは、当社が独自に開発し、最適化を図った発酵促進技術を応用し、実用化に至ったもの。スターバックスの店舗から衛生的に回収したコーヒーの豆かすを牛に与える乳酸発酵飼料として再資源化し、さらにこの飼料で育てられた乳牛のミルクをドリンクの原料に循環利用する「食品リサイクルループ」を実現。牛の飼料の効能の研究をメニコンと麻布大学(河合 一洋 准教授)が共同で実施し、有用な抗酸化作用が見出され、乳牛に給餌された際、乳品質向上(乳体細胞数減少)^{※1}につながる事が判明しました。乳酸発酵結果として乳出荷量が増えたことや環境負荷の低減と持続的な循環型社会の形成に貢献するシステムが高く評価されました。



※1 2013年3月28日～30日 第155回日本獣医学会学術集会にて発表。コーヒーの泌乳牛に対する乳質改善効果に対して特許出願、特許2013-080785

コーヒー豆かすリサイクルの流れ



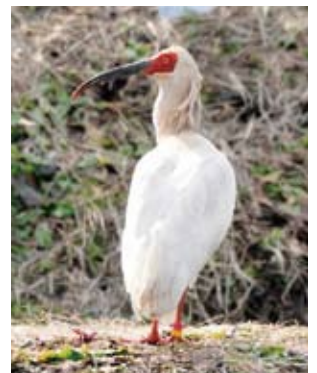
新潟県と佐渡市の「トキ保護基金」に寄付金を贈呈

コンタクトレンズ洗浄剤の研究過程で発見した酵素の分解力を応用したメニコン初の農業資材が、稲わら分解促進剤「アグリ革命」です。この製品は、米収穫後のすみやかな稲わら分解を促進し、冬季でもトキのエサ場を確保するため、田んぼに水をはった状態にすることができ、年間を通じてトキが生育しやすい環境をつくり出します。

当社では2011年より「アグリ革命」の売り上げの一部を新潟県および佐渡市の「トキ保護基金」へ寄付し続け、自然環境と生物多様性の保全に貢献しています。

○新潟県トキ保護基金:30万円(2014年10月)

○佐渡市トキ保護基金:20万円(2014年10月)



● 犬の眼科医療に貢献、補助犬健康診断に協力参加

当社は、コンタクトレンズ・眼内レンズ開発で培ってきた高度な技術力を動物の眼科医療にも応用しています。これを受けてグループ会社のメニワンと連携し、補助犬（盲導犬、聴導犬、介助犬）の健康診断サポートを獣医師会の協力依頼に基づき、毎年3月に実施しています。補助犬を必要とされる方の安全は、補助犬の「目」の健康状態によって左右されます。2015年は、アクティ浜松コンgresセンターで行われ、クリアビュー（眼底検査カメラ）など眼底検査に必要な機器を提供し、25頭の眼科検査のお手伝いをさせていただきました。



● クールビズ・ウォームビズ対策のユニフォームを着用

東日本大震災発生後の2011年より、夏季は業務上着用品が難しい工場や一部の関連会社を除き、パートやアルバイト、派遣社員を含む国内の全グループ社員にポロシャツを支給しています。就業中は全員がユニフォームとして着用し、冬季にはソフトで保温効果の高い機能性繊維を使用した統一ジャケットを着用するなど、全社をあげてクールビズ・ウォームビズを推進。省エネ・節電、震災復興への継続的な意識づけに努めています。



● エコグリーン企画として、苗木の寄付や育樹活動を実施

人にも動物にも環境にも優しい地球企業を目指し、当社ではさまざまなエコ活動に取り組んでいます。地球に緑を増やしてCO₂を削減し、酸素を増やす活動として名古屋市戸田川緑地における秋の植樹祭に社員が参加し、森づくりに必要な苗木の植樹や間伐による育樹を行っています。また、ソフトコンタクトレンズ用ケア用品エピカコールドシリーズの売上の一部を、水源涵養林を作る活動「メニコン×Present Tree in 飛騨高山」に活かすなど、「水を育む森づくり」を進めています。



